



平成29年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年12月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 シーズ・ホールディングス
 コード番号 4924 URL <http://www.ci-z-holdings.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成28年12月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年7月期第1四半期の連結業績(平成28年8月1日～平成28年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年7月期第1四半期	9,438	35.9	1,794	385.1	1,834	387.9	1,270	385.8
28年7月期第1四半期	6,945	△8.4	369	△57.0	376	△58.3	261	△54.6

(注) 包括利益 29年7月期第1四半期 1,297百万円 (453.2%) 28年7月期第1四半期 234百万円 (△61.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年7月期第1四半期	26.13	—
28年7月期第1四半期	5.54	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年7月期第1四半期	34,507	27,108	76.2	540.59
28年7月期	36,140	27,951	75.2	558.72

(参考) 自己資本 29年7月期第1四半期 26,291百万円 28年7月期 27,173百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
28年7月期	—	0.00	—	44.00	44.00
29年7月期	—	—	—	—	—
29年7月期(予想)	—	0.00	—	47.00	47.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年7月期の連結業績予想(平成28年8月1日～平成29年7月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	19,132	9.0	2,800	△8.0	2,800	△8.8	2,230	6.0	45.85
通期	42,900	8.7	7,600	△7.2	7,600	△7.1	5,660	7.0	116.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 平成28年9月12日に公表しました平成29年7月期第2四半期(累計)の連結業績予想数値を修正しております。詳細は、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年7月期1Q	48,635,255 株	28年7月期	48,635,255 株
29年7月期1Q	— 株	28年7月期	— 株
29年7月期1Q	48,635,255 株	28年7月期1Q	47,185,422 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(4) 追加情報	
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中、各種政策の効果もあり、緩やかな回復に向かうことが期待されております。ただし、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れをし、わが国の景気が下押しされるリスクが存在しております。また、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。

このような環境の中、当社グループはグループ全体の企業価値向上を主眼として、当連結会計年度より新たに第5次中期経営計画を策定いたしました。

また当第1四半期連結累計期間の経営成績については、前第3四半期連結会計期間から新たに株式会社シーズ・ラボが連結対象となり、前年同期と比較して連結売上高と各段階利益が増加したことに加え、ラボラボブランドの売上が引き続き国内外で売上高が急拡大した結果、売上高は9,438百万円(前年同期比35.9%増)、営業利益は1,794百万円(前年同期比385.1%増)、経常利益は1,834百万円(前年同期比387.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,270百万円(前年同期比385.8%増)となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、「化粧品事業」「健康食品事業」「エステ・サロン事業」から「化粧品事業」と「健康食品事業」を合わせた「ドクターシーラボ事業」と「エステ・サロン事業」へセグメントの変更を行っております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<ドクターシーラボ事業>

ドクターシーラボ事業においては、ドクターシーラボブランド・ラボラボブランド・ジェノマーブランドで構成される3つの化粧品ブランドと健康食品を販売しております。

ドクターシーラボ事業をブランド別に見ますと、主力ブランドであるドクターシーラボブランドは、新規顧客の獲得を目的として、ロングセラー商品の「VC100エッセンスローション」を中心としたVC100シリーズの展開を開始いたしました。中でも新商品「VC100ホットピールクレンジングジェル」は、発売開始以来、好調な売れ行きとなっているため、今後は新規顧客層の拡大及びその他のドクターシーラボブランド商品の購入を誘引する商品として訴求を強化してまいります。またドクターシーラボブランドの主力商品であるアクアコラーゲンジェルシリーズの売上拡大を目的として、「アクアコラーゲンジェルエンリッチリフトEX」のテレビCMを放映したことに加え、既存顧客の購入を促進する各種キャンペーンを実施してまいりました。

ラボラボブランドは、「スーパー毛穴ローション」が前連結会計年度に引き続き、売上を大きく伸ばしました。特に中華圏からのお客様から前年同期を大きく上回るお買い求めがあり、化粧品全体の売上増加に大きく貢献いたしました。

ジェノマーブランドは、高価格帯のブランドとして定期的に既存商品のリニューアル及び新商品の発売を行っている中、当第1四半期連結会計期間においては「アイケアエッセンス スピード3」を新発売いたしました。

健康食品については、主力商品である「美禅食」について前年同期よりも広告費を投下したものの、売上高は前年同期比で減収となりました。

次にドクターシーラボ事業を販路別に見ますと、通信販売においては大容量アクアコラーゲンゲルシリーズの販売を例年よりも前倒しで行ったことに加え、アクアコラーゲンゲルを含めたセット商品をお買い上げいただいたお客様を対象に特典商品を贈呈するキャンペーンを行ったことにより、購入単価の引上げに繋げることができました。また、新商品「4Dボトリウムエンリッチリフト」「エンリッチリフトUPローション」については、サンプル品提供による認知度向上もあり、販売状況としては好調なすべり出しとなりました。以上により、通信販売の売上高は4,959百万円となり、前年同期と比較して9.6%増加いたしました。

卸売販売においては、前連結会計年度に引き続き「スーパー毛穴ローション」を都市部のドラッグストアを中心に積極的な出荷を行い、前年同期を大幅に上回る売上高となりました。また、新たに20代後半～35歳の顧客層を拡大させるべく、幅広い顧客層から人気が高い「VC100エッセンスローション」と当該商品のシリーズ商品に関して、お客様の目に留まりやすい定番棚に配置するなどの販売施策を行ってまいりました。以上により、卸売販売の売上高は1,906百万円となり、前年同期と比較して46.0%増加いたしました。

対面型店舗販売では、来店客数及び来店回数の増加を目的として、「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」及びVC100シリーズの無料サンプルやトライアルキットを店頭設置するなどして、カウンセリングや商品の試用の促進を積極的に行ってまいりました。また、当第1四半期連結会計期間にドクターシーラボ直営店として天神地下街店を新規開店するとともに、外国人観光客のインバウンド需要を取り込むべく、銀座・新宿・池袋エリアの店舗での販売にも引き続き力を入れてまいりました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、942百万円となり、前年同期と比較して11.6%増加いたしました。

海外においては、香港は前連結会計年度に引き続き、「スーパー毛穴ローション」を中心に好調な売れ行きで、国全体の売上としても過去最高水準の四半期売上高となりました。台湾は、年最大の需要期である週年慶に各百貨店でセールが実施され、主に「スーパー毛穴ローション」やUV商品の売上が好調に推移いたしました。シンガポールでは、卸チェーンストアのワトソンの取扱店舗が拡大している中、「スーパー毛穴ローション」だけではなく、アクアコラーゲンゲルなどのドクターシーラボブランドについても、雑誌や記事などで商品が取り上げられ、商品認知の底上げがなされております。以上により、海外の売上高は、959百万円となり、前年同期と比較して252.2%増加いたしました。

以上により、ドクターシーラボ事業の売上高は、8,768百万円（前年同期比26.2%増）、営業利益は1,670百万円（前年同期比351.7%増）となりました。

<エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、当第1四半期連結会計期間に東北地方では初出店となる仙台店を新規開店し、既存店舗では首都圏及び大阪の支店を中心に契約数が順調に積み上がっております。以上により、エステ・サロン事業の売上高は、669百万円、営業利益は125百万円となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年7月期の第2四半期連結累計期間の業績見通しを修正いたしました。

詳細につきましては、本日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。
- (4) 追加情報
(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針)
「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,829,693	18,811,666
受取手形及び売掛金	5,686,957	3,617,117
有価証券	233,511	229,148
商品及び製品	2,070,491	2,411,569
原材料及び貯蔵品	1,308,152	1,111,105
その他	1,296,666	1,581,761
貸倒引当金	△61,224	△60,879
流動資産合計	29,364,248	27,701,488
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,132,156	1,170,767
減価償却累計額	△420,839	△440,320
建物(純額)	711,317	730,446
工具、器具及び備品	1,436,052	1,446,050
減価償却累計額	△1,143,439	△1,161,152
工具、器具及び備品(純額)	292,612	284,898
土地	1,315,861	1,315,861
その他	175,674	175,674
減価償却累計額	△66,796	△70,046
その他(純額)	108,878	105,627
有形固定資産合計	2,428,669	2,436,834
無形固定資産		
ソフトウェア	267,945	248,717
ソフトウェア仮勘定	933,738	1,042,987
のれん	2,180,217	2,107,543
その他	21,649	21,507
無形固定資産合計	3,403,551	3,420,756
投資その他の資産		
その他	964,748	968,698
貸倒引当金	△20,534	△20,534
投資その他の資産合計	944,213	948,163
固定資産合計	6,776,435	6,805,754
資産合計	36,140,684	34,507,243

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	554,407	797,240
未払金	1,984,749	1,470,284
前受収益	1,161,666	1,076,666
未払法人税等	1,953,858	396,863
賞与引当金	153,923	209,364
ポイント引当金	149,199	143,792
その他	1,877,171	2,944,027
流動負債合計	7,834,976	7,038,238
固定負債		
退職給付に係る負債	187,944	193,722
その他	166,349	166,620
固定負債合計	354,294	360,342
負債合計	8,189,271	7,398,581
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,959,358	2,959,358
資本剰余金	3,436,758	3,436,758
利益剰余金	20,790,661	19,921,691
株主資本合計	27,186,778	26,317,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221	△824
為替換算調整勘定	△13,590	△25,332
その他の包括利益累計額合計	△13,368	△26,157
非支配株主持分	778,002	817,011
純資産合計	27,951,412	27,108,662
負債純資産合計	36,140,684	34,507,243

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成27年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成28年10月31日)
売上高	6,945,895	9,438,414
売上原価	1,296,198	1,871,620
売上総利益	5,649,696	7,566,794
販売費及び一般管理費	5,279,777	5,772,300
営業利益	369,918	1,794,493
営業外収益		
受取利息	1,300	496
受取配当金	35	—
為替差益	—	16,655
受取手数料	6,904	8,211
商品破損受取賠償金	2,079	1,987
その他	8,712	12,910
営業外収益合計	19,032	40,261
営業外費用		
支払利息	143	103
為替差損	12,594	—
その他	188	74
営業外費用合計	12,926	177
経常利益	376,024	1,834,577
特別利益		
固定資産売却益	—	3,963
特別利益合計	—	3,963
特別損失		
減損損失	—	912
固定資産除却損	184	537
特別損失合計	184	1,450
税金等調整前四半期純利益	375,839	1,837,089
法人税等	114,233	526,651
四半期純利益	261,606	1,310,438
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	39,457
親会社株主に帰属する四半期純利益	261,606	1,270,980

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年8月1日 至平成27年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成28年10月31日)
四半期純利益	261,606	1,310,438
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,556	△1,495
為替換算調整勘定	△20,548	△11,742
その他の包括利益合計	△27,104	△13,237
四半期包括利益	234,501	1,297,200
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	234,501	1,258,191
非支配株主に係る四半期包括利益	—	39,008

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年8月1日至平成27年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額	合計
	ドクターシーラボ事業	エステ・サロン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,945,895	—	6,945,895	—	6,945,895
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,945,895	—	6,945,895	—	6,945,895
セグメント利益	369,918	—	369,918	—	369,918

(注)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成28年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注)1	合計 (注)2
	ドクターシーラボ事業	エステ・サロン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	8,768,638	669,776	9,438,414	—	9,438,414
セグメント間の内部売上高又は振替高	20,743	—	20,743	△20,743	—
計	8,789,382	669,776	9,459,158	△20,743	9,438,414
セグメント利益	1,670,970	125,397	1,796,367	△1,874	1,794,493

(注)1. セグメント利益の調整額△1,874千円は、セグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「化粧品事業」「健康食品事業」及び「エステ・サロン事業」の3区分から、「化粧品事業」と「健康食品事業」を合わせた「ドクターシーラボ事業」と「エステ・サロン事業」の2区分に変更しております。これは、当連結会計年度より開始する第5次中期経営期計画において、今後新規事業を含めたグループ事業の拡大を計画しており、株式会社ドクターシーラボの「化粧品事業」と「健康食品事業」をまとめた「ドクターシーラボ事業」と株式会社シーズ・ラボの「エステ・サロン事業」という2つの事業区分で経営管理することに変更したためでございます。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。